

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677500128
法人名	社会福祉法人 陵幸会
事業所名	グループホーム 陵幸園こころ
訪問調査日	平成19年9月20日
評価確定日	平成19年10月19日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4677500128
法人名	社会福祉法人 陵幸会
事業所名	グループホーム 陵幸園 こころ
所在地	鹿屋市吾平町麓3811番地2 (電話) 0994-58-5055
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成19年9月20日

【情報提供票より】(平成19年9月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年5月7日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	18 人
常勤	16人, 非常勤 人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 2棟
------	-----------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎内科 小浜歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緩やかな丘陵地帯に、同一法人の特別養護老人ホームや関連の老人保健施設などに近接して建てられたホームである。周りの畑には豊かな実りが溢れ、地域の住民との温かな交流も行われている。ホテルでの外食やカラオケ、温泉など、外出の機会も多く、入居者の皆さんは充実した毎日を送っておられる。食事については、二ヶ月毎の嗜好調査や週1回のメニュー会議で皆さんの意見を聞き、献立作りに反映している。職員は、「心豊かに心のつながりを大切に」という理念に基づいて熱心に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念の明示について、重要事項説明書やパンフレットに明記し、毎月発行のホーム便りにも記載しており、ご家族の方へも理解していただけるよう取り組んでいる。また、ホーム内にも「こころの運営理念」として掲示しており、職員間での共有に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ミーティングを開き、職員全員で話し合いながら自己評価を実施し、外部評価の結果についても迅速な改善を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議において出された提案や要望に対し、必要に応じて改善したり、質問があれば詳細を説明するなど、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議にご家族が参加されたり、電話連絡や面会時に声かけを行い、意見や要望を聞く機会を設けている。又、意見箱を設置しており、家族会も開催している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	慰問を受け入れたり、同一法人のデイサービス利用者との交流会に参加するなど、地域に人々との交流を行い、行事記録を作り活動内容や行事の情報を記載している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流を積極的に行いながら、ホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや日々の業務の中で、理念に基づく具体的なケアについて話し合い、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	慰問を受け入れたり、同一法人のデイサービス利用者との交流会に参加するなど、地域の人々との交流を行い、行事記録を作り、活動内容や行事の情報を記載している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングを開き、職員全員で話し合いながら自己評価を実施し、外部評価の結果についても迅速な改善を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において出された提案や要望に対し、必要に応じて改善したり、質問があれば詳細を説明するなど、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや市の担当者へ質問や相談をしたり、運営推進会議の前後の時間を利用して、市の担当者にホームに立ち寄りてもらい、入居者との交流の機会も作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される「こころ便り」とスナップ写真をご家族に送り、行事や活動内容の報告をしたり、電話や葉書などで近況報告を行っている。又、面会時に金銭出納帳の確認をしていただきサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族が参加されたり、電話連絡や面会時に声かけを行い、意見や要望を聞く機会を設けている。又、意見箱を設置しており、家族会も開催している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代時は、引継ぎの期間を充分に取り、入居者へのダメージを最小限に抑え、スムーズに移行できるように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、内容によって対象となる職員を選定し、なるべく順番に参加させ、受講後はホームにおいて報告会を行っている。又、内部では、毎月テーマを決めて勉強会を開いている。しかし、管理者や職員を段階に応じて育成するための、計画的な取り組みは十分とは言えない。	○	職員の経験や役割に応じて、計画的な学びの機会が確保できるように、年間研修計画等の立案と実施に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームの管理者と情報交換を行ったり、実習に参加するなど、サービスの質向上に活かす取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅へケアマネジャーと共に訪問したり、入居後も職員同伴による帰宅や、希望に沿った外出支援が行われている。又、ホーム内に作られた地域交流室を利用して、ご家族がいつでも泊まれるようにするなど、安心感を持ってもらえるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の経験や知識を会話の中から聞いたり、日常生活の中から発見し、農作業や包丁研ぎ・台所仕事など、人生の先輩として教えてもらう機会を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や身近な人からの情報を得て、日常生活の中で行動や言葉から思いをくみ取るよう努め、日々の関わりの中でケアに反映できるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族から思いや意見を聴取し、カンファレンスを開き、職員からの意見を含めて、介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族に会議出席を依頼したり、出席できない場合は電話で要望を聴取し、それらを取り入れながら状態の変化時や、四ヶ月毎の定期的な介護計画の検討と見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する法人グループの特別養護老人ホームや老人保健施設、医療機関、支援センターなどと連携を図り、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、ご家族同行の受診となっているが、不可能な場合は職員が同行するなど、柔軟な対応がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応に係る指針が作られており、必要に応じて関係者との話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報についての研修を受け、意識向上を図ると共に、日々のケアの中でも、声かけの方法や対応において、入居者の誇りやプライバシーを損ねることがないように心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課としている散歩や調理など、一人ひとりの状態や希望に配慮しながら支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣住民からの頂き物やホームで栽培した季節の食材を食卓に出したり、二ヶ月に1回の嗜好調査やメニュー会議を実施し、希望を取り入れるようにすると共に、職員は献立表に感想などのコメントを残し、献立や調理方法に活かせるよう取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後からと決まっているが、希望や状態に応じて柔軟な対応ができています。又、月に1回は「湯遊ランド」温泉へ出かけ、一般浴に入れない入居者も、福祉浴を利用できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブに出かけた折、自宅に立ち寄り庭の花を摘んできたり、墓参りに立ち寄ったり、入居者の習慣や希望に沿える支援を行っている。又、調理や農作業など、一人ひとりの力量や経験から、楽しみごとを作る働きかけを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回、カラオケ・温泉・外食を計画・実行し、週に1回ドライブに出かけるなど、積極的な外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、地域住民の協力が受けられるよう働きかけている。又、帰宅願望の強い方に対しては、職員同伴による帰宅を行い、状態に応じて安心と安全を考慮した対応がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、夜間想定・昼間想定 of 火災避難訓練を実施し、入居者も参加されるため、各居室にはヘルメットも備え付けてある。法人全体の訓練にも、年2回参加している。又、地域の方々からの協力が得られるよう、近隣住民宅を訪問し、呼びかけを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に、水分摂取量・尿量・便回数を記載し、個別看護記録に食事摂取量を記載しながら、状態把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり 木					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたダイニングに、ソファのコーナーが設けてあり、庭に咲いた花々を飾るなど、季節を感じながら心地よく過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと箆笥は準備されているが、冷蔵庫・ゴザ・扇風機・位牌など、自宅で使っていた馴染みの物を持ってきていただき、好みの壁飾りをするなど、思い思いの居室空間が作れるよう配慮されている。		